

## 第3学年国語科学習指導計画

指導者 呉市立和庄中学校  
三浦宏紀

1. 学年・学級 第3学年2組(31名)
2. 指導事項 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。(C 読むことウ)
3. 単元名・教材 詩を味わう 「初恋」島崎藤村
4. 単元について

### (1) 単元観

本教材は、中学校の教科書の中では数少ない文語で書かれた詩である。教材の多くが口語で書かれているため、この教材は文語に触れる機会として非常に重要である。また、本教材は七五調の定型詩であるため、リズム良く読むことができる。音読を通して定型詩独特のリズムを体感できる。

しかしながら、目にとめるべくはそのリズムだけではない。リズムの中に洗練された言葉の数々が存在している。リズム良く音読の回数を重ねたのちに、この洗練された言葉を味わい、その意味を考えること、短い言葉に込められた情景や心情を感じ取ること、単純な言葉の一つひとつを捉え、そこから登場人物の心情や位置関係すらも把握することが必要になる。

さらに、「初恋」という身近なテーマであることから、生徒は非常に親しみやすい。生徒の思いと詩で描かれている思いを比較することもできる。そうすることで、本文の表面的な読みだけではなく、自分たちの思いや経験と比較することで、詩の読みを深化させることができるであろう。

### (2) 生徒観

本学級の生徒は、3年生になってから「虹の足」、2年生の時に「未知へ」「わたしが一番きれいだったとき」などの詩を学習してきたが、今回のような文語で書かれた詩は初めてである。「和歌の世界」において文語と七五調に触れてきているものの、文語ということで苦手意識を持つことが予測される。

また、情緒豊かな内容を、深く読み味わうことも得意ではない。表記されていることには目が向くが、そこに秘められている深い思いを捉えることを苦手としている。

しかしながら、「初恋」という身近なタイトルから、興味を持って授業に臨める生徒も多いのではないかと考えられる。生徒がその興味をいかに持続しながら授業に臨んでいけるかが課題である。

### (3) 指導観

「初恋」は、文語定型詩で、生徒になじみのない言葉遣いとなじみ深い七五調のリズムで書かれている。そのため、音読を通して文語に親しむ機会を多く設けることとする。そして、その際にメトロノームを利用することで、そのリズムをことさら強く感じることができるようにする。リズムの中で文語を自然と読めるようにする。文語をしっかりと暗唱できるようになるまで読み込むことが、秘められた作者の思いを探ることとなるからである。

また、実物の林檎を利用し、林檎が持つイメージを想起させる。そうすることで、詩の中で林檎が持つ役割や意味合いを捉えやすくする。林檎を通して、この詩の中に描かれる様々な心情を深く読み取らせる。

また、二人の距離感や二人の心情を具体的に本文の言葉一つひとつから考えさせることで、深く読み味わうことを心がけさせるようにしたい。また、班活動を取り入れることによって、各自の読みでは捉えることができなかった読みを深めるようにしたい。

## 5. 単元の目標

リズムを意識して音読しようとする。(国語への関心・意欲・態度)

登場人物の心情や特徴を効果的に表している表現を読み取る。(C 読むこと U)

詩の中に使われている語句について理解する。(言語についての知識・理解・技能)

## 6. 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
七五調のリズムを意識して音読しようとしている。	登場人物の心情や特徴を効果的に表している表現を読み取っている。	詩の中に使われている語句について理解している。

## 7. 指導と評価の計画

次	時	学習内容	評価規準	評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林檎が持つイメージを考える。</li> <li>・音読を通して詩の形式を確認する。</li> <li>・メトロノームを使ってリズムを感じながら音読する。</li> <li>・一連を読み深める。</li> </ul> 【登場人物・年齢・われの心情等】  * 胸の高まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七五調のリズムを意識して音読しようとしている。(ア)</li> <li>・一連における人物の心情や特徴を表す表現を捉えている。(イ)</li> <li>・詩の中に使われている難語句について理解している。(ウ)</li> </ul>	自己評価  ワークシート  小テスト
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを感じながら音読する。</li> <li>・二連と三連を読み深める。</li> </ul> われときみの心情を本文の表現から読み取る。 【薄紅の秋の実・こひ初めし・こころなきためいき ・情に酌みしかな等】 * 恋の絶頂期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七五調のリズムを意識して音読しようとしている。(ア)</li> <li>・二人の関係や思いを表す表現を捉えている。(イ)</li> </ul>	自己評価  ワークシート
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを感じながら音読する。</li> <li>・四連を読み深める。</li> </ul> 二人の会話や表現から心情を読み取る。 【細道・誰が踏みそめしかたみ・こひしけれ等】 * 恋の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の表現から二人の心情の深化を読み取っている。(イ)</li> </ul>	ワークシート

## 8. 本時の展開【3 / 3時間目】

### (1) 本時の目標

二人の心情の深化を捉える。

### (2) 観点別評価規準

詩の表現から二人の心情の深化を読み取っている。

### (3) 準備物

ワークシート, メトロノーム, 林檎の絵

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点(手だて)	具体的評価規準	評価方法
導入	1. 本文をリズムに合わせて音読する。	メトロノームを使用して、リズムを感じさせることで、定型詩の特徴を捉えやすくさせる。 覚えている生徒は暗唱をするようにし、音読も個に応じて行わせる。		
展開	2. 詩の内容について (1) 二人の会話となっている箇所を考える。 「おのづからなる～かたみぞ」 誰が誰に尋ねているのだろうか？ 「おのづからなる細道」について ア. この細道はなぜ出来たのか？ イ. この細道が示すものは何か？ 【おのづからの意味を考える。】  「踏みそめし」について ア. なぜ今回の「そめし」だけ平仮名なのか？  (2) 「林檎畠」に実っている林檎は何色になっているだろうか？	「こひし」に着目させ、誰が誰に恋をしたのかを考えさせる。そうすることで、誰が誰を「こひし」く思うのか理解させる。  この細道はどこにできたのかを確認する。そうすることで、自然と道ができる要因を考えさせる。 「細い」という言葉の意味を捉えさせるために、細いという言葉が持つイメージを考えさせる。 「おのづから」という言葉の意味を考えさせることで、この道が自然にできているということに気づかせる。そこから、会うことに夢中になっている二人の気持ちに気づかせる。 意味が捉えられない場合には辞書を使って調べさせる。 前半では「そめし」は「初めし」として使われていたことからその意味を捉える。そして、他に「そめし」と読める漢字はないかを考えさせる。そこから「染めし」という言葉を出させ、何度も通ったという意味にもとれることに気づかせる。 一・二連に登場した林檎の色を再確認することで、林檎の色が二人の関係を比喩的に表現していることに気づかせる。そして、そこから四連の林檎の色を考えさせる。そこから二人の関係の深まりを確認する。		
まとめ	(3) 詩全体を通して「われ」と「君」の恋がどのように変遷してきたかをまとめる。	一連から四連までの二人の心情をグラフにしてまとめることで、二人の関係が次第に深まっていく様子を捉えさせる。	二人の心情の変化をグラフにし、その根拠となる表現をまとめている。	・ワークシート